

14:00
13:40 開場

2025

11
2
(日)

文楽三味線編

出演

鶴澤燕

つるざわ えんざ



KAAT

KANAGAWA ARTS THEATRE



国立劇場

大
三
味
線
編
実演 & レクチャー
観てよみ解く

料金

2,000円(自由席)

神奈川芸術劇場〈中スタジオ〉

観てよみ解く〜実演&レクチャー〜

KAAT 神奈川芸術劇場と国立劇場が協働し、伝統芸能の継承や普及のために新たな取り組みを実施します。
 古来から脈々と受け継がれてきた日本の古典芸能は、時代に合わせて様々に変化しながら、現代まで受け継がれてきました。
 しかし、その当時は同時代の舞台芸術として愛されてきた芸能も、現代においてはその魅力を知る人が少なくなっている現状があります。
 <つたえつなぐ>は、KAAT 神奈川芸術劇場がその「古典」を現代の視点でよみ解くことで、
 現代演劇やコンテンポラリーダンスに繋がる舞台芸術として、古典芸能の愛好者だけでなく、観たことがない観客、また演劇やダンスのアーティストらに、
 その魅力や表現力を知っていただき、現代の私たちにとっても、近く、魅力的な芸能であることを発信していくシリーズです。

今回は、昨年度3月に引き続き、文楽にフォーカス。三味線の魅力に迫ります。
 素舞台での実演とレクチャーがセットになった、体験型レクチャーをお届けする本企画。舞台でみる上演とは違い、
 近い距離で実演を体感していただいた後に、現代の舞台芸術の専門家やアーティストが、その魅力に迫ります。
 この機会に、一緒に「古典」をよみ解いてみませんか？

文楽

三味線編

2025年11月2日(日) 14:00 (13:40開場)

今回は、文楽の三味線弾きにフォーカス。文楽では床と呼ばれる演奏スペースで太夫とともに義太夫節を演奏しますが、三味線弾きも登場人物の心情や場面の情景を三味線の音で表現しています。今回も実演とレクチャーがセットになった、体験型レクチャーをお届けします。舞台でみる上演とは違い、近い距離で実演を体感していただいた後に、現代の舞台芸術のアーティストが、その魅力に迫ります。

鶴澤燕三

つるざわ えんざ

出演

糸井幸之介

いと い ゆきの すけ

ナビゲーター

©白井晴幸

劇作家・演出家・音楽家。2004年に女優の深井順子により旗揚げされたFUKAIPRODUCE羽衣の全作品で作・演出・音楽を手掛ける。『瞬間光年』(2017年上演)にて、第62回岸田國士戯曲賞最終候補となる。近年作はFUKAIPRODUCE羽衣『プラトニック・ボディ・スクラム』、木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』等。多摩美術大学准教授。

1977年国立劇場文楽第4期研修生となる。1979年4月五代鶴澤燕三に入門、鶴澤燕三郎と名のる。同年7月に朝日座で初舞台。2006年4月に六世鶴澤燕三を襲名。2013年第69回日本芸術院賞受賞、2018年第37回国立劇場文楽賞文楽大賞受賞、2020年松尾芸能賞受賞、2022年4月紫綬褒章授章。

KAAT 神奈川芸術劇場

〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町281
 TEL.045-633-6500(代表) FAX.045-681-1691
<https://www.kaat.jp>

- みなとみらい線：渋谷駅から東横線直通で35分！横浜駅から6分！日本大通り駅から徒歩約5分。元町・中華街駅から徒歩約8分。
- JR根岸線：関内駅または石川町駅から徒歩14分。
- 市営地下鉄：関内駅から徒歩14分。
- 市営バス：芸術劇場・NHK前すぐ。
- 横浜駅前東口バスターミナル 2番のりば乗車(所要時間約25分) 桜木町駅前バスターミナル 2番のりば乗車(所要時間約10分)
 ※上記のりばから発車するバスはすべて「芸術劇場・NHK前」を通ります。
- 神奈川芸術劇場有料駐車場(65台)もご利用下さい。
- 指定管理者：(公財)神奈川芸術文化財団

会場

KAAT 神奈川芸術劇場〈中スタジオ〉

料金(税込)

自由席 2,000円

お申し込み、お支払い方法

KAAT神奈川芸術劇場Webページよりお申し込みいただき、当日受付にてお支払いください。

現金でのお支払いのほか、キャッシュレス決済にも対応しています。



託児サービスあり。一週間前までに要予約・有料(マザーズ 0120-788-222)

お問い合わせ

KAAT 神奈川芸術劇場

TEL.045-633-6500(10:00~18:00)
<https://kaat.jp/d/tsutatsuna2511>

宣伝美術：江野耕治

(KAAT神奈川芸術劇場)劇場広報アートディレクション：吉岡秀典 芸術監督：長塚圭史

企画制作：KAAT神奈川芸術劇場、国立劇場

主催：KAAT神奈川芸術劇場、独立行政法人日本芸術文化振興会(国立劇場)

